

はじけるこころ

Vol.49

まいにち学校  まいにち街  の中 こどもの笑顔につなげる

編集・箕面市人権教育推進会議

発行・箕面市教育委員会人権施策室

TEL:072-724-6921

E-mail:edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

令和2年(2020年)3月

この情報紙は、保育所・幼稚園・小中学校の保護者をはじめ、広く市民のみなさんに、身近な人権教育の話題を知っていただくため、市民参加方式で編集したものです。

ご家庭で子どもさんと、あるいはご近所や職場のかたと、こうした話題にふれて、語り合っていたいただければと思います。

あすチャレ！スクール
～パラリンピック選手との交流を通して『障害』について考える～

◇令和元年9月6日～12日

◇第一中学校、南小学校、東小学校、
中小学校、豊川南小学校

◇講師 根木慎志さん

(元シドニーパラリンピック

車椅子バスケットボール

日本代表キャプテン)

今年度も「あすチャレ！スクール」がやってきました。日本財団パラリンピックサポートセンターから元選



手を派遣していただき、市内小中学校5校で授業を実施しました。子どもたちは、講師の根木さんとの交流を通して、「他者のことを自分ごととして考える心」「障害とは何か」「可能性に挑戦する勇氣」「夢」や「目標」を持つ力」について、考え学びました。

まずは、講師の根木さんの自己紹介とデモンストレーションがありました。シュートに失敗しても明るく楽しそうに挑戦し続ける根木さんの姿を見て、子どもたちの応援の声にどんどん力が入っていききました。また、スリーポイントシュートが決まったときには大きな歓声につつまれ

もくじ

あすチャレ！スクール

～パラリンピック選手との交流を通して『障害』について考える～

カフェ シエスタ

～精神障害者のみなさんが地域の人とふれあいながら楽しく働いている喫茶店～

箕面市人権教育推進会議

・多文化共生教育

・部落問題学習

イキイキさわやかに学ぶ会

・「見た目問題」

～アルビノを通して考える～

・ひとりひとりの多様なもちあじは
みんなの未来をつくるたからもの

総合的な学習(キャリア教育)

未来に向かって

～出会いを通して、自分らしい

生き方を考える～

司書コーナー

世界を広げるおはなしシャワー

編集後記

8

7

6

5

4

3

2

1

ました。

次に、子どもたちの代表による車椅子バスケットボール体験が行われました。思ったように動かない車椅子を操作しながら同時にボールを扱うことや、車椅子に座りながら、いつもより遠くにあるゴールにシュートすることに戸惑いながらも、友だちからの応援を受けてプレーを楽しんでいました。

最後に、根本さんからお話がありました。障害者が抱えている一番の障害は、身体上の「障害」ではなく、社会に存在する「障害」で、それは、みんな一人ひとりが気づいたことを行動に移すことができれば取り除くことができるんだ、ということ。そして、できないことや失敗することをかっこ悪いとか恥ずかしいとか思わずに、チャレンジすることを笑顔で楽しめばいいんだ、ということを根本さんの力強いお話と前向きな姿から学びました。



カフェ シエスタ

「精神障害者のみなさんが地域のひと
ふれあいながら楽しく働いている喫茶店」

シエスタは、石橋阪大前駅から少し歩いた住宅

街の中にある、かわいいカフェです。カレーライスやスパゲティ、ケーキなど店内で飲食ができるほか、箕面市内の小中学校をはじめ公共施設などで焼き菓子の出張販売をしています。令和元年12月、シエスタへ伺い、理事長の植田恵美子さんにお話を聞いてきました。

現在、社会福祉法人息吹として、2か所の就労継続支援B型事業所（あっとほーむ、シエスタ）、生活介護事業所（もみじの家）、相談事業所・地域活動支援センター（パオみのお）及びグループホームを運営されています。

もみじの家は、平成元年に設立し、箕面市指定こみ袋の製袋作業やキッチンフラワー（ナイロンたわし）の製造・販売などを行っています。あっとほーむは、平成9年に憩いの場を中心とした施設として開所しましたが、平成23年から箕面の味を大切にした手作り弁当の製造・販売をしています。そして、平成12年に、3か所目としてシエスタが設立されました。

シエスタの設立前に、どんな事業所を望んでいるか、精神障害者のかたに希望を聞いたところ、「もっと地域の人とふれあいたい」「自然な形で地域住民と関わりたい」という声がたくさん上がったそうです。このような願いを実現するべく検討した結果、喫茶店を開くことになりました。地域の人をはじめ様々な関係機関に支えられながら今まで活動してこられたそうです。



シエスタで働いているのは、主に精神障害者のかたです。自分らしく仕事したい、働いて自立したいと思って、一般企業への就職に不安を感じたり、困難を抱えたりする人が少なくないそうです。スタッフのサポートを受けながら、地域の人と交流することを通して生活技術やコミュニケーション技術を身につけ、一般就労につながったり、生活を充実させたりしています。

Q シエスタで働くかたの様子を教えてください。
A 20代から60代の方まで幅広く働いています。「こころの病」を持った人の中には、長い入院生活を経験している人もいます。退院しても、周りの人とながつたり、居場所を見つけたりすることが難しいと感じているなど、人付き合いが苦手な人は少なくありません。これは、入院などでコミュニケーション技術や生活技術を身につける機会、いわゆる社会経験が不足するからです。

しかし、シエスタでの仲間との付き合いや、お客さんと接することによって、コミュニケーション能力が上がっていきます。自分のつくったお菓子をお客さんが手に取って買ってもらえたとき、み

んなとてもいい笑顔になります。「ありがとう」と言われるなど誰かの役に立ったという経験や、一つの仕事を長く続けられたという経験が、病気を持ちながらも楽しく豊かに生活していこうとする励みとなり、自信を持って次の夢へ挑戦してみようと思える力になるのだと思います。

Q 支援するうえで大切にされていることはなんですか。

A シエスタは精神障害者のかたにとって、一般就労につなげるための通過点でもあります。ただ、居心地が良すぎて就労意欲がなくならないようにすることも大切だと思っています。長い治療生活で失った自信と体力を取り戻してもらうために、やさしさだけでなく時には厳しさも大切にしながら、一人ひとりに合った声掛けや相談にのるなどのサポートをしています。

また、シエスタを退所して次のステップに向かうかたには、「しんどかったらいつでも帰っておいで」と声をかけて送り出しています。就職したりアルバイトを始めたりしても、自分に合わず、すぐに辞めてしまう場合もあるからです。シエスタは、安心して帰れる場所でもありたいと思っています。

精神障害者のかたの作業している様子も拝見しましたが、一つひとつの工程を手作業でゆっくり丁寧に行っていることが印象的でした。お店は、静

かで穏やかな雰囲気だと感じました。シエスタとシエスタを支える周りの地域のように、箕面市全域が、誰にとっても安心して暮らし働ける場所であってほしい、と思いました。

出張販売されているクッキーやマドレーヌはとても美味しく、特に、シフォンケーキがふわふわしていてお薦めです。お店は、地域の人の集まりや、ご近所のお友だちどうしでのパーティーなど、事前に予約をすれば貸し切れることもできるそうです。また、お店の入口には近隣の作家さんの手作り雑貨が置いてあったりと、地域コミュニティの交流の場にもなっています。ぜひ、一度利用してみてください。

☆カフェ シエスタ (瀬川2-5-14)

営業時間 月～金 9時30分～17時30分

お休み 土日祝 他(夏休み、年末年始等)



箕面市人権教育推進会議

人権教育推進会議は、有識者や市民、教職員等で構成され、箕面市における人権教育等について検討しており、この情報紙も編集しています。今年度は2回、小中学校での人権教育について教職員からの報告を受け、意見交換を行いました。

多文化共生教育

◇令和元年6月24日

◇講師 第三中学校 永田詩史里教諭

市立の学校園にも、外国にルーツがある子どもたちが通っています。永田教諭は、箕面市在日外国人教育研究会(市外教)の事務局長としても活動されています。

市外教では、外国にルーツがある子どもと、周りの子どもが互いの違いを認め合い、アイデンティティを尊重する関係を培うため、「ちがいを豊かさ」に「をキーワードとして、子どもの実情の把握や背景の理解、多文化共生および在日外国人教育の研究や実践交流、関係機関との連携など、子どもたちが安心して学校園で過ごせるよう、取り組みを進めています。

学校の多文化共生教育の授業でよく取り組まれている「マイクロ・アグレッション」についてのワークを体験しました。マイクロ・アグレッションとは、発言者には相手を傷つけ差別する意図はないが、その言葉の中に、異なる人種・文化・習慣をもつ人に対する無理解、偏見、差別が含まれている、微細な見えにくい攻撃のことを言います。

このワークを通じて、その発言をすることで、目の前にいる人や周りで聞いている人がどう思うか、また、第三者としてそのような場面に会ったときにどのような行動をとることができるかという

視点を育てることの大切さを学びました。

部落問題学習

◇令和2年1月15日

◇講師 北小学校 大坪研介教師

人権教育についての自身の体験談を交えたお話でした。大坪教師の学生時代における人権教育は、「暗い」「しんどい」イメージだった、と振り返られました。しかし、教員となり、本人ではどうにもならない様々な課題を抱えた子どもたちや、それを支える地域の人たちと出会ったことで、人権教育の重要性を認識し、社会の課題や差別を解決していくためにも人権教育は必要だと実感したとのこと。誰もが差別する・差別される可能性があるため、みんなが人権について学ぶ必要があります。人権教育を通して、知識・態度・実践する力を育み、全ての人が「差別はあかんやろ!」と思い、行動できることをめざされています。

人権教育を行うことで、自分のルーツについて、保護者と話をする子どもも出てきます。子どもたちが安心して自らのルーツを話せる環境をつくり、全教職員が差別という社会的な課題を認識し、寄り添うことで、仲間と共に問題を解決し、乗り越えていくことができる子どもたちが育つ、とのことでした。

部落問題については、絵本を使ったり、まちづく

りの観点から差別を乗り越えようとしている人たちと出会ったり、歴史や公民の授業の中では、差別をされていた人の文化的な役割に焦点をあて、差別の不合理さを子どもたちに感じさせたりするような学習を進めています。

安心感のあるクラスの中で、人権学習を毎年積み上げることで、子どもたちに部落問題をはじめとする人権問題を「自分ごと」として考え、行動できる力や周りとながらる力を育みたい、そのために、学校として人権教育を大事にする環境を箕面市全体でつくりたい、という思いを語られました。そして、周りにいる私たち大人も人権について学び続け、行動していかなければならない、と改めて考える機会となりました。

「市民委員」としての活動を通じて

箕面に長く暮らしながら地元との接点は少なかったのですが、定年退職後に市民委員のお話をいただき、少しでもお力になればとの思いから人権教育推進会議に参加させていただきました。

現場の先生方の生のお話を伺う機会はとても貴重で、新たな驚きと刺激をいただき、いかにさまざまな面で親子共々お世話になっていたことを改めて知りました。健康であることを当たり前にとらえている自分も発見させられたと思います。

(市民委員 飯國直樹)

イキイキさわやかに学ぶ会

「イキイキさわやかに学ぶ会」は、市立小・中学校・幼稚園の保護者を対象に、身近な事柄を通して人権について考える学習会です。今年度も6回開催しました。今回は、そのうち2回の学習会についてご紹介します。

「見た目問題」 ～アルビノを通して考える～

◇令和元年9月20日

◇講師 数本 舞さん(アルビノ・ドーナツの会)



数本さんから、顔や体に生まれつきアザがあったり、脱毛など見た目に症状があるかたが日々ぶつかる問題である「見た目問題」につ

いて話していただきました。数本さんは、先天性眼皮膚白皮症(アルビノ・アルビニズム)として生まれ、治療方法が無いため、アルビノである状態と生涯向き合う必要があるそうです。

アルビノの特徴的な症状としては、肌の白さがあげられます。そして、白いが故に日焼けをしやすく、赤くなり火傷になることもあるので、日焼け対策が重要となります。また、髪の毛や瞳の虹彩部分にも色素が無いので、髪の色や瞳の色・見え方も

様々であり、紫外線に弱く、眩しさを感じやすいところで、中には屋内でも遮光レンズが無ければ眩しさを感じるかたもいます。

数本さんが小・中学生の時は、親族が先生に「アルビノのことを一切話題にしないように」とお願いしていたため、同級生たちとの間に見えないわだかまりがあり、対等な人間関係が形成しにくかったそうです。運動会のように外で一日中過ごすときは日焼けや眩しさがつらく、遠足では一緒になった他校の生徒に不思議そうに見られたり、騒がれたりしたものの、同じ学校の中ではアルビノの話はタブーとなっていることに違和感を感じ、「自分から、自分の言葉で、自分を説明したい」と強く思うようになっていったそうです。

また、そのアルビノによる「見た目」の問題からアルバイト先が見つからない、視力が弱いことで自動車運転免許が取れない、といった経験をされ、相談できる場所も非常に少ないと感じた数本さんは、「みんなができることが自分にできないのであれば、自分にしかできないことをして生きていきたい」と考え、当事者グループ「アルビノ・ドーナツの会」を設立されました。

現在は、青森県十和田市での交流会や、アルビノの学生を対象にした「アルビノ甲子園」を開催するなど、アルビノ理解のための様々な啓発活動を積極的に行われています。

世の中には様々な「見た目問題」がありますが、

治療に緊急性がなく、生命に危機がないため、社会問題として大きく取り上げられにくいのが現状です。

今回の学習会で、「見た目」による問題を抱えているかたの思いや、社会的課題について学ぶことができました。私たち一人ひとりが、当事者の思いを知り、理解しようとするのが、「見た目問題」の解決に向けての一步であり、様々な人がともに生きやすい社会づくりへとつながっていくのではないのでしょうか。



ひとりひとりの多様なもちあじは

みんなの未来をつくるたからもの

◇令和2年1月24日

◇講師 沖本和子さん（大阪多様性教育

ネットワーク）



沖本さんは、ひとりひとりの多様なもちあじを持つ子どもたちが、豊かな気持ちで日々を過ごすことができるように、いつでも安心できる

場づくりが大切で、そのための3つの約束を伝えられます。

①うなずこう（うなずきのおへそ）

話をしっかり聞いていることを伝えるために、おへそを向けて心を向けて『聞いているサイン』を出しましょう。途中で自分の意見は挟まず、「おへそ」「そっなんや」とうなづきながら、全部の話を聞きましょう。「あなたの気持ちは分かったよ。私はこう思うけど、どう思う？」と、そのときのお互いの思いを全部伝え合うことが大切です。

②秘密は守ろう

今は個人的な情報を気軽にSNSで発信する時代ですが、それが原因でいじめにつながることもあります。子どもは大人を信用して話をしているので、子どもだからといって、個人的な情報を勝手に口外してはいけません。

③パス、OK！

できること、できないことは人によって違います。できないことはカッ！悪いことではありません。できないことはできないと伝えて、できる人に助けてもらい、できる人はできない人を助けます。こうしてつながった仲間の多様なもちあじが、お互いが生きるための栄養になります。

子どもたちはみんな精いっぱい生きています。

例えば、その子なりに一生懸命頑張ったテストの結果が30点だったとき、大人が「もっと頑張ろう。」と言ってしまつと、その子どもは自分なりに頑張ったことを認めてもらえなかったことで自己肯定感が下がります。

また、多くの子どもが、笑うことは良いことで、泣いたり怒ったりすることは良くないことだ、と思っています。子どもがそういう気持ちになったときは、「つらいこと、悲しいこと、苦しいこと、なんでも全部話していいんだよ。秘密は守るからね。」と、子どもを安心させる言葉をかけましょう。子どもは、気持ちを言葉に置き換えることができると安心するので、大人から子どもたちに、たくさん感情を表していいことを伝えることが重要だそうです。

自分の存在を大切に思ってくれていることが分かる、子どもは安心して、嬉しくて自己肯定感が高まります。個々に身体的能力や育ってきた環境、経験が違つので、物事に対する感情や考え方も様々です。そうした子どもの豊かな多様性を大切にすることは、相手を尊重する心を育みます。

言葉によって気持ちは変化します。例えば、「図々しい」というのは、逆に言えば「積極的」であること。「引っ込み思案」は、「控えめ」という心地のいい言葉にもなります。それは子どもたち一人ひとりが持っているもちあじであり、子どもた

ちの未来のたからものなのです。大人はそれを否定しないでほしい、とのことでした。

『聴』という漢字は、耳と目(目)と心を合わせて(十)、お互いの気持ちをひとつにして聴くことと考えることができます。子どもが安心してすべてを話すことができるよう、全身全霊で子どもと向き合い、話を聴くことの大切さを学びました。



総合的な学習（キャリア教育）

未来に向かって

出会いを通して、自分らしい生き方を考える

◇令和元年12月11日

◇萱野東小学校6年生

卒業が近くなつてきた小学6年生は、多くの学校でキャリア教育に取り組んでいます。キャリア教育は、将来、それぞれが自分らしい生き方を実現できるように、必要な基盤となる能力や心を育てていくことを目的としています。萱野東小学校では、NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝のみなさんをゲストティーチャーとしてお招きし、様々な活動のお話を聞くことを通して、「働く」という

ことについて考えを深める授業がありました。

まずは、地域通貨「まーぶ」の発行や企画に携わっているかたのお話を聞きました。「まーぶ」とは、子どもたちが自分のため、誰かのためになる活動をすることで稼ぐことができ、みのおキーズモールなどのお店で使える地域通貨です。子どもたちが「まーぶ」を稼ぎ、使う中で、人と関わり地域とつながり、どのような状況の子どもも社会の中で主体的に生きる力を獲得してほしいという願いをもって活動をしているそうです。

次に、東日本大震災の被災地支援として、主に、仮設住宅にいる人の悩みや困っていることを聞いて、どうすれば解決できるかを考え、活動されてきたかたから、お話を聞きました。例えば、仮設住宅に引っ越した子どもたちは学校が遠くなつて困っていたり、仲が良かった友だちと離ればなれになり寂しい気持ちでいたりします。子どもたちがつながらを取り戻せるよう、勉強する場所として学習会を実施したり、駄菓子屋を開いたりしたそうです。多くの人のこれからの生活や夢を支えることにやりがいを感じたとのことでした。

最後は、一般社団法人YDPで、ひきこもりを経験した人をはじめ様々な背景を持ちながらも地域のために働きたいという願いを持つ若者と、一緒に働きながら応援する活動をされているかたからのお話でした。日々、引っ越しや部屋の模様替え、除草など、主に地域の高齢者からの依頼があるそ

うです。地域の困っている人を助けることはもちろん、この活動を通して、社会に出ることに難しさを感じている若者に、人とつながる力と自信を取り戻してほしいと話されていました。

子どもたちは終始、熱心にメモをとりながら聞いており、授業後の感想には、「子どもの自分たちにも、困っている人のためにできることがあるんだと思いました。」「子どもたちのため、地域のため、みんなのために、自分たちができることをして、多



くの人を喜ばせることができる仕事って素敵だなと思いました。」「自分に自信が持てない人でも、人の役に立つことで自信がつくと思います。」「などと書いていました。

子どもたちは、世の中にはいろんな仕事があって、みんなが安心して暮らせる社会を創りたいと願いながら、たくさんの方が働いていることを知ったと思います。子どもたちにとって、進路を切り開いていくためのヒントがたくさんつまった時間となったのではないのでしょうか。



司書コーナー

世界を広げるおはなしシャワー

菅野小学校には、学校と「おはなしサークルたんぽぽ」が協働した授業があります。その一つが「おはなしシャワー」です。1、2年生を対象に、いくつかの教室をテーマごとの部屋として飾りつけ、子どもたちは自分で興味のある部屋を選びます。

そこでは「たんぽぽ」さんの読み語りを聞いたり、たくさんさんのテーマ絵本を自分で、または友だちと読んだり、「たんぽぽ」さんや先生から読んでもらったりしていて、「おはなしのシャワーを浴びる」という、20年以上前からある取組です。

この活動をここ数年、4年生にも実施しています。今年度は11月12日に開催しました。「物語を読むのが苦手だったり、読むジャンルを広げることが苦手な子どもたちに、きっかけを作りたい」という先生の提案からはじまったため、「みんながつてみない（個人の多様性）」「やわらか頭（豊かな発想）」「レッツ・チャレンジ！（挑戦や成長）」「あなたの知らない世界（多文化）」というように、多様な価値観や可能性を広げられるものがテーマに選ばれました。

また、絵本だけでなく、物語や知識の本など、対象となる本の種類も広範囲です。読み語りを聞いて、子どもたちは本の世界にとっぴり入り込んでいったようです。その後、自由に本を選んで読める時間になると、子どもたちは、「たんぽぽ」さんに「他にもおすすめの本はないか」と聞いたり、「この本を読んで」とお願いしたりしていました。後日の図書の時間に、すべての部屋の本を紹介し、展示すると、違う部屋を選んだ子どもどうして、「これ、おもしろかった」と会話が生まれていました。

四年生は二分の一成人式があるなど、自分のことを振り返りながら、成長とともに自分の世界が広がっていると実感する時期だと思っています。「おはなしシャワー」を通じて、楽しみながらも、より一層多様な視点を持つていくてくれたらうれしいです。

（菅野小学校司書 中野摩耶）

☆編集後記☆

読者のかたから、前号の感想をお送りいただいたのでご紹介します。

はじめまして。今回初めて「はじけるころ」を読ませていただき、新しい発見や学びがあったので、感想を送らせていただきます。

小学生の娘が学校から持ち帰ったのですが、きちんと読むのは初めてでした。まず第二中学校の制服が変わったという記事には、驚きました。公立の小中学校というのは「考え方が古い、固い」というイメージがあります。それがジェンダーフリーという観点から制服の変更が実現したということに感動しました。携わった方々のご苦労が容易に想像できます。4年かけて実現にこぎつけたというのは本当に素晴らしいです！

ほかのどの記事も、なるほどと思ったり、国際交流クラブはうちの地域にもあるといいなと思いました。ミナミの現状には、箕面では想像もできない子ども達の現状に愕然としました。でも、そこをなんとかしようという思いと取り組みに心から応援したいと思いました。

「人権」という固くつつきにくいイメージですが、内容は一人一人全ての人を大事にしよう、というもので子ども達に伝えたいと思うものでした。「人権」って何か他の言葉に置き換えられないのでしょうか？ 30代後半の私ですが、正直興味をひく単語ではないです。

内容はどの人にも関係していて大事なことで、発信しておられるメッセージがもっと沢山の人の人に伝わればいいなと思いました。次の「はじけるころ」も楽しみにしています。

貴重なご意見ありがとうございました。



「はじけるころ vol. 49」はいかがでしたか？

みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください。下記の①～④の内容を、郵送、ファクスまたはEメールにてお送りください。これからも人権教育に関心をもっていただける記事を掲載したいと思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集委員一同お待ちしております。

記

- ①ご意見・ご感想、②お名前（無記名でも構いません）、③「はじけるころ」の入手方法、④（「はじけるころ」に掲載する場合がありますので）ご意見・ご感想掲載の可否について

〒562-0015 箕面市稲 1-14-5 箕面市教育委員会人権施策室

FAX : 725-8360

Email : edujioken@maple.city.minoh.lg.jp